

# 資料編Ⅱ

---



ラウンドチャーチ(ケンブリッジ)

## スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医師 河邊史子、伊東裕子

培養室・検査室 大津英子、長木美幸、熊迫陽子、後藤香里、城戸京子、  
佐藤千賀子、佐藤晶子、那須 恵、佐藤久子

看護部 指山実千代、原井淳子、門屋英子、篠田多加子、赤嶺佳枝、  
越光直子、河野絢子、工藤美子、斉高美穂、二宮 睦、  
関こずえ、松元恵利子、足立直美、三重野直美、酒井 操、  
桑野紀子、後藤裕子、井澤里砂、深田留美、岡田清美

心理専門相談室 上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)

総務部 宇津宮富美子

事務部 渡邊佳代、越名久美、梅田麻衣、足立小百合

情報処理室 工藤由香、平松里美、山路美和

厨房 後藤江美子、矢野千恵美、首藤清子

## 培養室・検査室の流れ

年	月	行 事
1992	6	開院
	6	動物による体外受精実験開始
	7	動物による体外受精実験終了
	7	IVF-ET 臨床応用開始
	9	GIFT 臨床応用開始
	10	顕微授精セット設置
	10	IVF-ET による初妊娠
1993	2	ミリQ システム導入
	3	緩慢凍結胚移植法臨床応用開始
	3	GIFT による初妊娠
	6	IVF-ET による初出産
	8	PZD による顕微授精臨床応用開始
	9	ガス自動切換え装置設置
	10	ICSI による顕微授精臨床応用開始
	10	IVF-TET の臨床応用開始
	10	プログラムフリーザー ET-1 導入
	10	SUZI による顕微授精臨床応用開始
	10	SUZI-TET の臨床応用開始
	10	PZD による初妊娠
	12	GIFT での初出産
	12	IVF-TET による初妊娠
1994	2	MESA 臨床応用開始
	2	ET 後の安静時間 4 時間へ
	2	冷凍冷蔵庫設置
	3	SUZI による初妊娠
	7	緩慢凍結胚移植法による初妊娠
	7	クリーンベンチ設置 (2 台目)
	7	緩慢凍結胚移植法による初妊娠
	7	AHA 臨床応用開始
	7	顕微授精セットに微分干渉装置追加
	8	IVF-TET による初出産
	9	ICSI による初妊娠
	11	SUZI による初出産
	11	凍結精子を使用する ICSI 臨床応用開始
	11	TESE を使用する ICSI 臨床応用開始
	12	研究室改造
	12	ICSI-TET 臨床応用開始
	1995	1
2		化学射精精子を使用した ICSI による初妊娠
2		MESA-ICSI による初妊娠
2		ICSI-TET による初妊娠

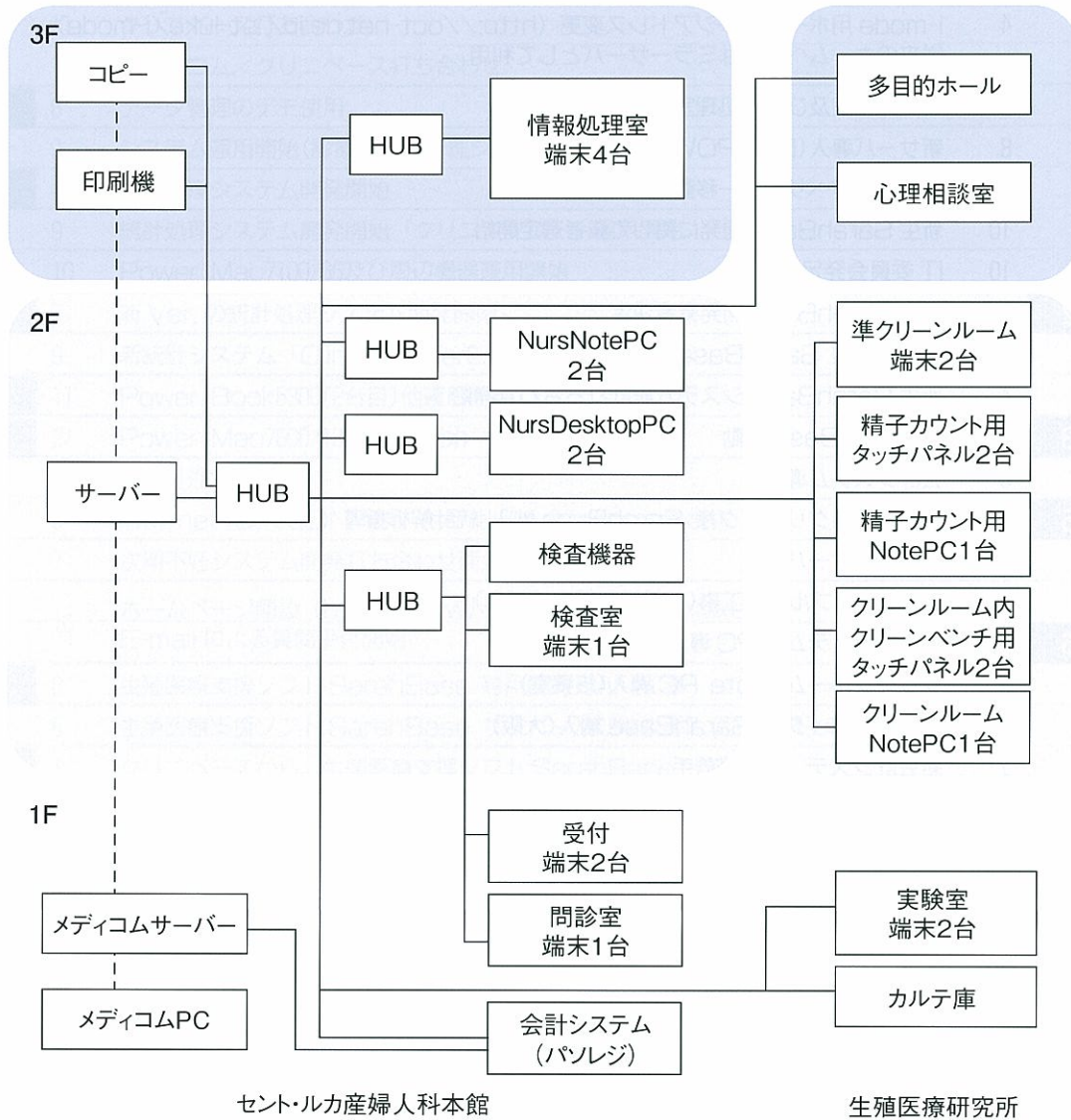
年	月	行 事	
1995	3	PZD による初出産	
	4	凍結精子を使用しての ICSI による初妊娠	
	5	空気殺菌消臭集塵装置設置 (3 台)	
	5	ICSI による初出産	
	7	ZIFT の臨床応用開始	
	10	研究室改造	
	10	化学射精精子を使用した ICSI による初出産	
	10	RESA 精子を使用した ICSI 臨床応用開始	
	11	RESA 精子を使用した ICSI による初妊娠	
	12	凍結精子を使用しての ICSI による初出産	
	1996	2	ZIFT による初妊娠
		2	SQA 導入
3		顕微授精セット (2 台目)、クリーンベンチ (3 台目) 設置	
3		市販 medium 使用開始	
4		MESA-ICSI による初出産	
5		移植胚を 3 個以内に限定	
7		RESA-ICSI による初出産	
9		ZIFT による初出産	
1997		2	ディープフリーザー設置
	3	SQA II B 導入	
	3	TESE-ICSI による初妊娠	
	4	動物実験室設置	
	6	精子形態評価法 Strict Criteria 臨床応用開始	
	8	ホルモン測定器バイダス導入	
	11	3 日目胚移植臨床応用開始	
1998	1	FISH 実験開始	
	4	生殖医療研究所建設工事開始	
	9	生殖医療研究所建設工事終了	
	10	生殖医療研究所、研究室内クオリティーコントロール開始	
	10	電気泳動装置導入	
	10	5 日目 (胚盤胞期) 胚移植臨床応用開始	
	12	クリーンベンチ 3 台 (6 台目) 設置	
	12	胚個別培養開始	
	1999	1	生殖医療研究所臨床運用開始
1		生殖医療研究所実験室運用開始	
7		後期胚急速凍結法 vitrification 法導入	
10		ホルモン測定器エクルーシス導入	
10		採卵室拡張工事	
2000	5	実験室に院内 LAN パソコン導入	
	7	後期胚 vitrification 法による初出産	
	10	蛍光顕微鏡画像取り込み装置導入	



年	月	行 事
2000	10	HOST 臨床応用開始
	11	Hatching stage 胚移植施行開始
	12	動物飼育施設設立
2001	2	移植胚数を2個以内に限定
	5	凍結胚カード使用開始
	6	クリーンベンチ1台(7台目)設置
	8	停電時用ブザー設置
	12	ET 後の安静時間15分へ
2002	6	胚培養士6名合格
	7	へパフィルター交換
2003	2	前核期胚 vitrification 法臨床応用開始
	5	胚培養士2名合格
	6	ホルモン測定器エバネット導入
	8	統計勉強会(3回)
	9	新 SarahBase 導入
	11	前核期胚 vitrification による胚移植初出産
2004	3	IVM 臨床応用開始
	5	へパフィルター交換
	8	ホルモン測定器 AIA 導入
	10	オートガスアナライザー導入
2005	3	顕微鏡ディスカッション装置購入
	5	お話部屋設置
	6	インキュベーター監視システム導入
	7	血液ガス測定装置 アイスタット購入
	11	IVM による胚移植初出産
	11	院内倫理委員会設立
2006	5	胚培養士1名合格
	6	呼吸量測定装置導入
	8	インキュベーター耐震工事
	9	インキュベーター耐震工事
	10	プラズマ滅菌機導入
	10	PGD 用蛍光顕微鏡フィルター導入
2007	2	ピエゾマイクロマニピレーター一式導入

# 院内LAN接続構成図

院内LAN接続構成図 (SarahBase)



院内LAN接続構成図 (インターネット)

